



1. ごあいさつ

総務幹事 北條洋 (福島県立医大会津医療センター病理診断科)

2011年3月11日の未曾有の東日本大震災から3年が過ぎました。津波災害、原発事故災害によりお亡くなりになられた方々のご冥福を心からお祈りいたします。また、ご遺族、ならびに過酷で不安定な生活を強いられている被災者の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。被災地においては一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

福島県からの委託により行われているふくしま国際医療科学センター放射線医学県民健康管理センターの県民健康調査「甲状腺検査」の実施状況は、県民健康調査検討委員会の評価を受け福島県立医科大学ホームページで公表されています (<http://fukushima-mimamori.jp/>)。その結果によると2013年12月31日現在、検査結果が確定した254,280人の中で、穿刺吸引細胞診検査を受け悪性ないし悪性疑いの診断を受けた人は75人(震災当時18歳以下)、手術が施行された34人の内訳は良性結節1人、乳頭癌32人、低分化型癌疑い1人と報告されています。二次検査時の平均年齢は 16.9 ± 2.6 歳(8-21歳)、5歳未満が0人、5歳以上10歳未満が1人、10歳以上15歳未満が12人、15歳以上20歳未満が53人、20歳以上が9人です。年齢分布はチェルノブイリ原発事故で見ついている放射線感受性の高い年齢層(0~5歳)とは異なり、SEER Cancer Statistics Review 1975-2010 (<http://seer.cancer.gov/>)など既知の知見と同様に10歳代、特に15歳以上に多く見られ、子ども達の甲状腺被ばく線量は総じて少ないことと併せて福島第一原発事故の影響とは考え難いと判断されます。発生頻度についてはSEERなどの知見と比較して高いですが、無症状の子どもに甲状腺検査を実施した過去の例でも同じような頻度との報告があります。では子どもの甲状腺癌の自然発生率と検査による発見率の乖離は何故起こっているのでしょうか。この解明には神経芽腫や自然退縮を示す腫瘍を経験、研究している小児病理学、小児腫瘍学の研究者がお手伝いできることが多々あると考えています。広島市で開催される第103回日本病理学会総会の2日目、4月25日(金)には、「小児脳腫瘍」をテーマに当研究会主催のコンパニオンミーティングが行われます。会員の皆様の参加をお願いします。

2. 第103回日本病理学会学術集会コンパニオンミーティングのお知らせ

小児病理研究会では、第103回日本病理学会総会において「小児脳腫瘍の病理診断」というタイトルでコンパニオンミーティングを企画いたしました。今回は、新たに出版された「小児腫瘍組織カラーアトラス第6巻中枢神経系腫瘍」の内容に沿って病理組織診断の要点の解説を群馬大学附属病院病理部の平戸純子先生に、病理組織診断と密接な関係のある分子病理学的知見について群馬大学大学院医学系研究科病態病理学分野の信澤純人先生にご講演いただけることになりました。多数の皆様にご参加をいただき、共に小児脳腫瘍に関して理解を深めることができればと思っております。
学術担当幹事 岸本宏志(埼玉県立小児医療センター 病理診断科)

コンパニオンミーティング 11
<日本小児病理研究会>
小児脳腫瘍の病理診断
日時：4月25日(金) 17:50-19:10
会場：ANAクラウンプラザホテル広島 G会場 3F
アカシア1
演者並びに演題
平戸純子先生
(群馬大学医学部附属病院病理部・病理診断科)
小児脳腫瘍の病理診断
信澤純人先生
(群馬大学大学院医学系研究科病態病理学分野)
小児脳腫瘍の分子病理

3. 第34回小児病理研究会学術集会について（第1報）

岡山大学病院 病理診断科柳井 広之先生のお世話で開催されます。多くの会員のみなさまのご出題、ご参加をお待ちしております。

第34回日本小児病理研究会学術集会

平成26年9月6日（土）

会場：岡山大学鹿田キャンパス内 Junko Fukutake Hall

主題：小児の循環器病理

特別講演：心臓の再生医療について（岡山大学病院新医療研究開発センター 王教授）

教育講演：小児循環器病理のトピックス（国立循環器病研究センター 池田医長）

前日には同じ会場で小児腫瘍症例検討会が開催されます。

4. 地区集会のお知らせ

第131回

関東東海地区小児病理カンファレンス

平成25年6月20日（金）午後5時30分から

於；

国立成育医療研究センター

世話人；

国立成育医療研究センター病理診断部

中澤温子先生

第71回

関西小児病理研究会

平成26年6月28日（土）午後1時30分から

於；

大阪市立総合医療センター（大会議室）

世話人；

大阪市立総合医療センター 病理部

井上健先生

*両研究会とも参加資格は特にありません。小児・周産期病理に興味のある方のご発表ご参加をお待ちしております。

5. 会費納入のお願い

本会規約により、本会会費は年間5,000円となっております。下記口座へお振り込みいただきたく存じます。ご不明の点があれば事務局 松岡までご連絡ください。

ゆうちょ銀行

【記号】10090

【口座番号】86612841

ニホンショウニビョウリケンキュウカイ

他の金融機関からお振り込みの際

【店名】〇〇八【店番】008

【預金種目】普通預金

【口座番号】8661284

6. 事務局より

会員の高齢化による会員数の自然減が進んでいます◇小児周産期領域の疾患は頻度が低いものの一般の病理医も年に数度は遭遇することがあります◇稀少な症例の経験をきっかけとしてこの領域に興味を持って下さる先生もいます◇病理・臨床を問わずそのような先生に入会していただけるようお誘い下さい。

日本小児病理研究会会報62号

平成26年4月7日発行

編集・発行 松岡健太郎

日本小児病理研究会事務局

<http://jspp.info/>

〒157-8535

東京都世田谷区大蔵2-10-1

国立成育医療研究センター

病理診断部病理診断科

TEL (03)3416-0181 FAX (03)5727-2879

E-mail matsuoka-k@ncchd.go.jp